

東邦大学学術リポジトリ



OPAC

東邦大学メディアセンター

タイトル	東邦医学会雑誌 編集委員長就任のご挨拶
別タイトル	Message from new Editor in Chief
作成者(著者)	杉山, 篤
公開者	東邦大学医学会
発行日	2014.05
ISSN	00408670
掲載情報	東邦医学会雑誌. 61(3). p.159 159.
資料種別	学術雑誌論文
内容記述	編集室から
著者版フラグ	publisher
JaLDOI	info:doi/10.14994/tohoigaku.61.159
メタデータのURL	https://mylibrary.toho-u.ac.jp/webopac/TD66897691

東邦医学会雑誌 編集委員長就任のご挨拶

杉山 篤

東邦大学医学部薬理学講座

2014年4月から、前任の並木 温教授のあとを受けて東邦医学会雑誌編集委員長に就任することになった。2014年で61巻にもなる伝統ある東邦医学会雑誌の編集委員長を担当させて頂く機会を得たことを大変光栄に思う。

前任の本誌編集委員長の並木 温教授の任期中には、金子弘真教授や佐地 勉教授などの歴代の本誌編集委員長が努力されてこられた改革のいくつかが結実した。まず、東邦医学会雑誌の情報発信機能が大幅に強化された。本誌の冊子体の内容はすべて電子化(pdf化)され、東邦大学学術リポジトリへ収載されて、東邦大学医学会ホームページから本誌の内容が閲覧できるようになったことは大なる進歩であろう。東邦大学医学会に所属する者なら誰もが、論文のpdfファイルを無料でダウンロードできる。さらに、タイトル、著者名(漢字、カナ、ローマ字)や、キーワードでの検索もでき、目的とする論文を容易に検索できるシステムが完成した。次に、本学大学院医学研究科で、2011年以降に承認された学位(博士)授与の記録も掲載されるようになった。これにより、本学での研究内容を、学内のみならず外部の研究者もが閲覧でき、東邦大学の研究内容を把握するのにおおいに役立つようになったと確信している。他には、表紙デザインの刷新、研修医発表抄録の掲載や大森病院 clinico pathological conference (CPC) の症例の掲載など、記事の大幅な増加がはかられた。

正直に言えば、このような先人の努力の上に、ここまで充実してきた東邦医学会雑誌を、新たに編集委員長に就任させていただいた私がどう発展させてゆくか、私に課せられた責任の重さに日々頭を悩ませている。2期目(1期3年)を迎える編集委員の周郷延雄先生[脳神経外科学講座(大森)], 高橋 寛先生[整形外科学講座(大森)], 津熊久

幸先生(医学情報学研究室), 瓜田純久先生(総合診療・救急医学講座)(ABC順)に加えて、2014年度から、新たに編集委員に就任いただいた石井良和先生(微生物・感染症学講座), 伊豫田明先生[外科学講座呼吸器外科学分野(大森)], 三上哲夫先生(病理学講座), 島田英昭先生[外科学講座一般・消化器外科学分野(大森)](ABC順)にも、多大なご苦勞をおかけすることになろうが、ご容赦願いたい。また、東邦大学医学会事務局の高口(こうぐち)さんには、引き続き雑誌編集事務をご担当いただくことになった。投稿者との連絡から論文発行に至る一連の煩雑な作業を引き受けていただくことになるが、是非ともよろしく願いたい。

リニューアルした新編集委員会では、東邦医学会雑誌に対して、より迅速な対応を望む投稿者の方々のリクエストに柔軟に対応できるように、今まで以上に体制を充実させてゆきたい。私の夢は、3年という短い任期中だが和英が混交する現在の状況から、本誌を、英文専門誌と和文誌の2つに分け、それぞれの内容を充実させてゆくことである。英文誌と和文誌を並行して発行するか、交互に刊行するか、同一冊子体の中で英文と和文の頁をそれぞれ独立して設定するかについては、今後、新・編集委員会で早急に検討していくつもりである。いずれにしても、英文誌として、内容を充実させてゆくことが、東邦医学会雑誌を、将来的にはImpact Factor (IF) を獲得できるジャーナルに成長させることに繋がると信じている。東邦大学医学部ならびに関連する医学研究者の皆様のみならずのご支援をいただければ幸いである。加えて、皆様からの投稿をお待ちしている。